
処女はお姉さまに恋してる 陰の庭師

憑依

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

処女はお姉さまに恋してる 陰の庭師

【Nコード】

N0344BA

【作者名】

憑依

【あらすじ】

聖應女学院からダブルエルダーが卒業した次の年……ずっと聖應女学院を見て来たちよつと不思議な庭師の話

3月エピソードの後のプロローグ（前書き）

この作品は自分の書いているオリジナルの小説「物語の中の銀の髪」と同時進行で書きます。

投稿が不定期です。それでも良ければ見て下さい。

3月エピソードの後のプロローグ

ヨーロッパを思わせる校舎に日本特有の桜の花の花びらが舞い落ちている。桜並木に目を向けると少女達が歩いているのが見える。大学に入学する友人に別れを告げる者。泣いている在校生を宥める者。逆に泣いている卒業生もいる。笑顔で友人と歩いている者も少なくない。

俺はベンチに座ってその様子を静かに眺めている。俺が静かに眺めているとブルネットの髪にエメラルドを思わせる眼をした少女がこちらに歩いてきた。

「どうしたんだい？こんなところで1人で。」

「今年度は、特に別れを告げにくるような人は居なかったからな。」

「園芸部の人達は？」

「園芸部……いや、特に何もしてないから来ないだろ。」

俺が、少女と会話していると「キャー！」という歓声が聞こえた。大方「彼女」達が来たのだろう。

「お前は行かないのか？ ケイリ？」

「……そうだね。じゃあね陸来年度もよろしく。」

「ああ、じゃあな。」

今日は卒業式。卒業生は別れを告げる日だ。

ここは、聖應女学院……幼稚園から短期大学まで一貫して行くことが出来る私立校であり、周りからはお嬢様学校として有名である。この学校には独特な制度がいくつかある……例えば上級生をお姉さまと呼ばなければならなかったり。最上級生の中から一人「エ

ルダー」と呼ばれる女性を選んだり……他とは少し違った学校である。

さっき来た少女……ケイリは今、2年生来年度には3年生になる。何故か彼女は時々俺の所にやってきて雑談をしたりしている。

彼女は占い等に詳しく。時には予言のようなことを言ってくる変わ……不思議な少女だ。

そんな事を考えているとさっきの歓声の原因がやってきた。2

人の少女を中心に様々な少女が歩いてくる。銀の髪の「白銀の姫

君」きさきのみや妃宮 千早。ちはや ストレートの黒髪にやや強気そうな眼「騎士の

君」ななはら七々原 薫子。かあるこ 今年度のエルダーであつた2人だ。詳しく

は知らないが今年度は生徒達の要望で2人になったとか。

2人を中心に生徒達が囲んでいて集合写真を撮っている。俺は

そんな人々を静かに眺めている。

俺の名前は白崎 はくさき 陸。りく 今は24歳だ（見た目は周りの人から1

8歳から変わらないと言われる）。ある事情があり中学を卒業し

てからずっとここで庭師の仕事をしている。基本的に俺はこの学

院の生徒とは関わらないのだが、時々相談を持ち込んだりする生徒

も居たのだが、今年度はエルダーが親しみやすかったり2年に「御

前」と言う人物のおかげで俺は今年暇だった。

そんな事を考えながら俺は少女達を中心に居る2人を眺めて考える。

さて、来年はどうなるだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0344ba/>

処女はお姉さまに恋してる 陰の庭師

2011年12月31日21時53分発行